

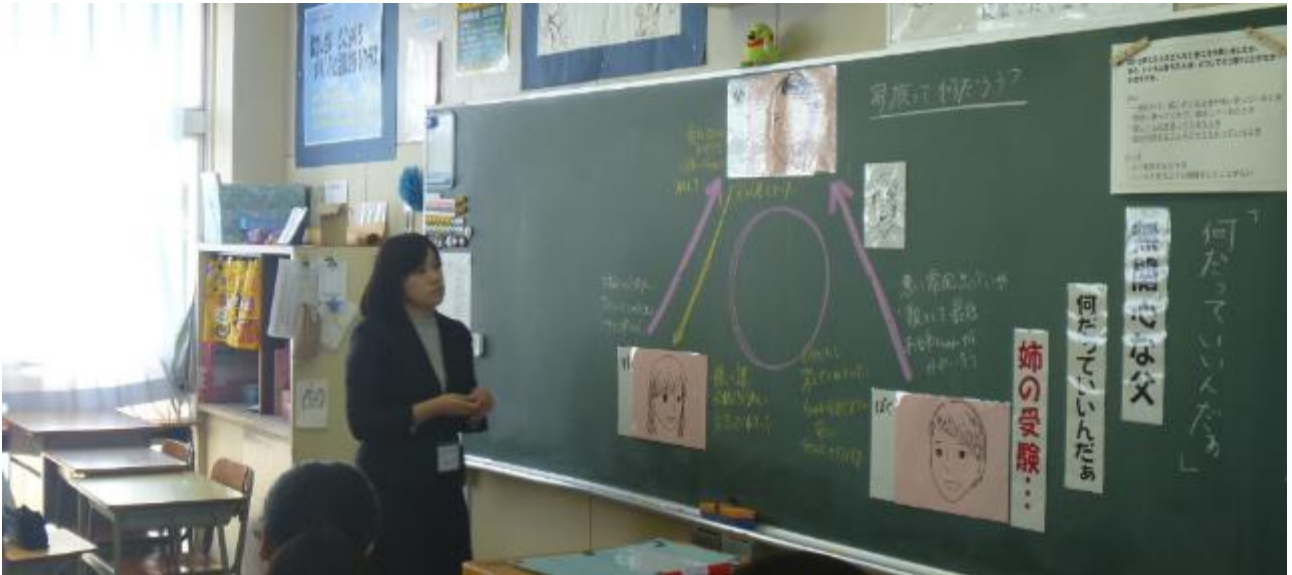
平成30年度 東部地区道徳教育研究協議会

平成30年10月31日(水)

三郷市立前川中学校

中学校B部会

主題名 家族の絆 【内容項目 C 家族愛、家庭生活の充実】
教材名 「何だっていいんだあ」(彩の国の道徳「自分を見つめて」)



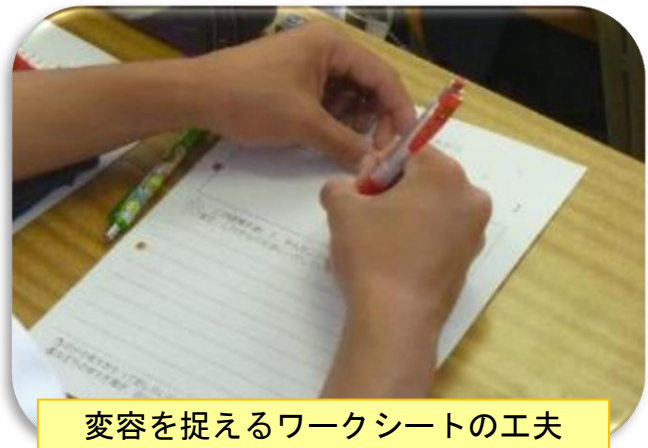
ねらいに迫るアンケートの活用



登場人物を対比させる構造的な板書



主体的に考える話し合い活動



変容を捉えるワークシートの工夫

1 授業者から（「私の授業の観てほしいポイント」の説明、授業についての感想等）

【私の授業の観てほしいポイント】

- ①アンケートを活用した導入について
- ②話し合う活動について
- ③ワークシートについて

【授業についての感想等】

- アンケートでは、ねらいに迫るため、「家族の良さ」に「自分の好きなことをさせてもらえる」ことを挙げている生徒を取り上げるなど、意図的に課題意識をもたせた。
- ワークシートでは、授業を通して学んだことを赤で書き足すようにするなど、これからの評価を意識したものとなるよう工夫した。



2 各グループからの発表（ワークショップ型分科会）

【①のポイントについて】

- 身近なところから本時の課題に入ることができ、教材にも入り込みやすかった。
- 「家族っていいな」に「いいえ」と答えた生徒の考え方を広げてみることも考えられたのではないかな。

【②のポイントについて】

- グループの人数が明確だともっとよい。2人、4人と決めておいてもよいのではないかな。
- 「何だっていいんだあ」の真意をもっと考えさせたい。もっと話し合えば生徒からも考えが出たのではないかな。
- 生徒同士の意見が広がるような工夫があるとよい。

【③のポイントについて】

- ウェビングマップを使うことで、授業前後の変容が捉えやすくなっていたのがよかった。
- ウェビングマップに出た言葉を拾うことで、さらに考えが広げられたのではないかな。



3 指導講評

- 道徳推進教師として、校長の道徳教育における方針の実現や「考え、議論する道徳」を実現するためには、様々な取組や工夫が必要。指導案作成でも、編成要領や指導・評価資料を参考にしてほしい。
- 教材の一番の問題は何か、を深めさせることが必要。そのためには登場人物の心情面を追うだけでできない。道徳的価値を上辺だけで捉えるのではなく、踏み込んで考えさせるためには、授業者の意図やねらいが大切である。
- グループでの話し合いは4人程度がベストである。話し合いにおいては、授業者が明確な意図を持ち、自分の考え方をもち、それを相手に伝えるだけでなく、相手の考えを聞き、捉え直すことができるよう配慮すること。
- ウェビングマップは、導入で使用するだけでなく終末でも活用できる。生徒が書き込むことで何に気付いたかをまとめることができるので、新たな気づきを得ることができる。
- 子供がどう捉え、どう考えるか、問題は何か、子供目線で分析してほしい。

